

CR FACTORY ANNUAL REPORT 2021

年次報告書

NPO法人CRファクトリー



CRファクトリー[®]
Community & Relationship

2022年は 「市民活動の再起動」の年

NPO法人CRファクトリー
代表理事 吕 哲煥



2020年初頭に新型コロナウイルスによるパンデミックが世界を襲い、それによって社会経済活動が制限される日々がずっと続いている。Withコロナ時代も3年目を迎えることになり、ここからどう考えていいのかが求められています。

新型コロナウイルスについてはいろいろな捉え方や認識がありますが、ここではNPO・市民活動・地域活動・サークル活動などのコミュニティ活動の視点から、2022年の方向性を提示していきたいと思います。皆さんが2022年の市民活動・コミュニティ活動をしていく上でのヒントにしていただければ幸いです。

ここまで振り返り

新型コロナウイルスの感染拡大により、世の中は3密（密閉・密集・密接）を避けなければいけない状況となり、イベント・場づくり・交流などを主活動とする多くの市民活動・コミュニティ活動にとっては、ものすごくやりづらい状況となりました。

リアルなイベントは開催しづらくなり、リアルなミーティングはやりにくくなり、多くの団体・活動はリアルな場と交流を剥奪されてしまいました。それによってZoomの活用を中心としたオンライン化が一気に進み、運営形態や組織形態、コミュニケーションのやり方が大きく変わつ

た団体も多かったと思います。

一方で、ミーティングやイベントやコミュニケーションをオンライン化できずに、活動が停滞したり、開店休業状態になったり、解散に追い込まれる団体も出てきています。2年間という時間はあまりにも長く、活動再開や引き継ぎの気運や目処が立たずに、苦しまれている団体も多いかと思います。

活動や運営をオンライン化できた団体は、オンラインによって時間調整がしやすくなったり、遠隔でもつながりやすくなったり、運営を効率化できる良い面もたくさんありました。しかし、一方でオンラインだけでは「気持ち」と「関係性」をつくるのが難しく、組織運営に困難を抱えた団体もあったのではないかでしょうか。市民活動・コミュニティ活動にとって「気持ち」と「関係性」は活動の基盤であり、エネルギーの源泉なのです。

これからどうする？

Withコロナ時代3年目の2022年を迎えて、今年は市民活動・コミュニティ活動にとってどんな活動環境になるのか、ずっと考えてきました。ここでは少し大胆で前向きな見立てをお話したいと思います。

この2年間、数々の変異株に遭遇し、新型コロナウイルスの性質も変化してきました。オミクロン株は感染力は強い

けれど、重症化しにくい傾向にあります。ワクチン接種については、2回の接種は約80%まで進み、3回目のブースター接種も今後は進んでいくことでしょう。メルクとファイザーの経口治療薬(飲み薬)も承認されて運用が始まり、塩野義製薬の国産飲み薬も承認に向けて動いています。

これらの要素が折り重なって今後の動向を予想するとき、私は今年の活動環境はこうなるのではないかと考えています。それは「何でもかんでも怖がって行動制限する」のではなく、「マスク・消毒・換気の3点セット」だけはしっかりしながらも、みんなで集まってミーティングしたり、イベントができる『ポジティブWithコロナ時代』になるという見立てです。

この2年間はネガティブWithコロナ時代でした。コロナを怖がって、行動制限と外出自粛をすることが主なモードでした。多くのイベントが中止や延期を迫られ、ほぼ活動らしい活動ができずに時間ばかりが過ぎたという団体が多くあったのは前述の通りです。

ここからは違います。今年1年はまだマスクは外せないし、ワクチン接種も必要だけど、消毒や換気などの基本的な感染対策をしながら、「リアルを積極的につくっていく」1年になると思います。リアルが少しずつ増えていくことによって、活動者の「気持ち」と「関係性」が盛り上がり、活動に活気が生まれ、「市民活動が再起動する」1年になると思います。

もしいま活動が停滞していて、再開の目処が立たない、突破口が見えない、気持ちが上がっていないかと思っている市民活動・コミュニティ活動のリーダーの皆さんいたら、ここからは違います。春になって“ふきのとう”や

“つくし”が土から顔を出すように、私たちの活動も少しずつ少しずつ動きやすくなっていきます。

少しずつできるところから動き出す準備を始めましょう。動き出すための活動の計画を立てましょう。楽しそうなイベントを企画しましょう。「みんなでミーティングやろう」と言い出しましょう。リアルがつくりやすくなり、みんなで会って話をしたり活動をしていれば、自ずと気持ちが盛り上がり、関係性も高まっていきます。そうなればさらに活動は動かしやすくなり、波に乗っていけるのではないでしょうか。

物理法則でも新規事業でも一番重たいのは、ものごとを動かし始める「すべり出し」「動き出し」「起動・始動」の段階です。逆に言えば、ここが動き出せば、慣性の法則やみんなの気持ちや動きによって活動はどんどんと動き出していくことでしょう。その最初の旗振りは誰かがする必要があります。勇気と情熱とビジョンを持って「今年は活動を動かしていこう」「リアルな場もつくりながら活動を再起動させていこう」とみんなに呼びかけていきましょう。

2022年のキーワードは「ポジティブWithコロナ時代」と「市民活動の再起動」。この2年間の自粛生活の中でオンラインも使いこなせるようになった市民活動・コミュニティ活動が、「リアル」な場を取り戻して、組み合わせて、活気を取り戻していく2022年になると考えています。

人間には「活動」が必要だし、地域や社会には「活動」が必要なのです。おしゃべりや雑談や体験が必要なのです。活動を通じた出逢いや交流やつながりが必要なのです。それがコロナでよくわかりました。活発な活動を通じて“コミュニティ”と“つながり”的豊かな社会をつくっていきましょう。

特設ページ

新型コロナウイルス(COVID-19)状況下における
市民活動・コミュニティ活動について

コロナ時代における学び・気づきやチャレンジ・実践事例を掲載しています。コロナ禍での市民活動・コミュニティ活動を進める上での参考にしていただければ幸いです。

<https://crfactory.com/intermediary/page-8195/>

右のQRコードからアクセスできます



ピックアップ事業事例

事例
1

東京都大田区 「コミュニティマネジメント塾」「区民活動コーディネーター養成講座」



東京都大田区で、昨年度に引き続き、行政との協働事業を実施しました。

<実施内容>

- ①コミュニティマネジメント塾
- ②区民活動コーディネーター養成講座／修了者向け研修
- ③助成金ミニセミナー ④個別相談支援 ⑤中間支援組織向け研修



昨年度・一昨年度も実施した「コミュニティマネジメント塾」に加え、新たに上記一式を担当させていただきました。「コミュニティマネジメント塾」「区民活動コーディネーター養成講座」はどちらも初のハイブリッド開催（リアル＆オンライン）となりました。平日夜の開催だったため、子育てや仕事の事情により、リアルでの参加が難しい方などから、「オンラインだから参加できた」という声もいただき、この時代におけるハイブリッド開催の有用性を実感しました。一方で、リアルとオンラインとの異なる場にいる参加者同士が連携することの難しさを感じ、今後に向けての課題となりました。

事例
2

埼玉県八潮市 「やしおコミュニティ未来塾～地域で心地よいつながりをつくろう・育てよう～」



「担い手がない」「代表や役員の負担が大きい」「転入者のつながりが薄い」「新たな実践者の発掘」などの課題解決に向けた連続講座を担当しました。講座の狙いは大きく3つ。**①これまでの地縁や社縁、血縁とは違うコミュニティやつながりを捉え直すこと。****②一人一人が輝くコミュニティ運営のノウハウを学ぶこと。****③この講座で繋がりが生まれ、八潮の市民活動の底上げにつながること。**

1日目はつながりやコミュニティの重要性をデータから学び、2日目はイベント運営の具体的な進め方やポイント、チームビルディングの大切さを学び、3日目はコミュニティ運営のノウハウを学びました。

コロナ禍で活動ができない状況が続いている団体が多くありました。講座を通じて交流が生まれ、コラボレーションの話があちこちで盛り上がりっていました。**今こそコミュニティを学ぶ機会が市民活動を再始動させるのろしとなる**、そんな可能性を感じることができました。

#出張セミナー

事例
3

千葉県袖ヶ浦市 「withコロナ時代における自治会活動・地域活動の工夫」

#出張セミナー

事例
3

令和3年度
袖ヶ浦市自治連絡協議会第1回会員研修会

CRファクトリー

withコロナ時代における
自治会活動・
地域活動の工夫

オンラインをうまく取り入れる

- ・居場所、サロン活動 →LINEでのやり取り
- ・講師を呼んでの体操 →オンライン配信

＜工夫ポイント＞

- ①得意な人を探す
- ②ますできるところから
- ③ますできる人から

CHIBA
SOSEGURA
CITY

袖ヶ浦市にて自治連絡協議会の役員の方々に向けたオンライン出張講座を行いました。例年であれば、町会自治会の運営に携わっておられる100名以上が集まる予定でしたが、感染対策のため当日は役員の方のみ会場で受講していただき、その録画を後日皆さまに向けて配信する形で実施されました。講座では、町会自治会においてコロナ禍でどのように活動を再開すれば良いのか、また実施する上でヒントを得たいという要望をいただき、コミュニケーションマネジメントの観点を踏まえながら、地域で実践されている事例をお伝えしました。

講義① コロナ禍による地域活動への影響

講義② これからの活動をどう進めるか

講義③ 事例紹介：コロナ禍に負けない地域づくりの工夫

もうしばらくwithコロナの状況は続きそうですが、こういう時こそ皆さんで連携し合って知恵を出し合っていくことが大切だと思います。市民活動・地域活動をこれからも支援・応援していきたいと思います。

#出張セミナー

事例
4

奈良県生駒市 「NPOの組織力アップのために強い組織をつくる！コツ」

#出張セミナー



NPOの組織力アップのために
強い組織をつくる！コツ

参加費 無料

7月31日(土) 13:30-16:00

ハイブリッド開催 Zoom × ららポート

NPOやボランティア団体の日々の活動で、組織がうまく進んでいかない時は、ありませんか？今日は、講師にコミュニティ運営・支援事業などをおなううさんを紹介して、強い組織をつくるコツを教かります。

お困りではありませんか？

- ・会員同士の想いを伝えるのが難しい…
- ・会議がスムーズに進まない…
- ・自分がが満足して、なかなかやりの会員を巻きこめない…
- ・新しい会員が増えない…
- ・仲間が増えた！

もやもやを解決しませんか？

- ・みんなの想いがわかった！
- ・1人1人が会員！の意識ができる！
- ・活動が活発になった！もちろん楽しむ！
- ・仲間が増えた！

講師の紹介

NPO法人 CRファクトリー
代表理事 ご つあき 岩佐 喬悟さん

主催 20人 (お申込順)

申込締切 7月8日～7月28日

お問い合わせ・申込用紙は画面へ▶

生駒市市民活動推進センター「ららポート」様のご依頼を受け、奈良県での開催は初めてとなるコミュニケーションマネジメント講座を実施しました。

リアル会場とオンライン（Zoom）とのハイブリッド形式での開催となりましたが、講義を聞くだけでなく、「グループワーク」や「全体共有」を取り入れた“双方向”で“対話・ディスカッション”的ある講座となりました。

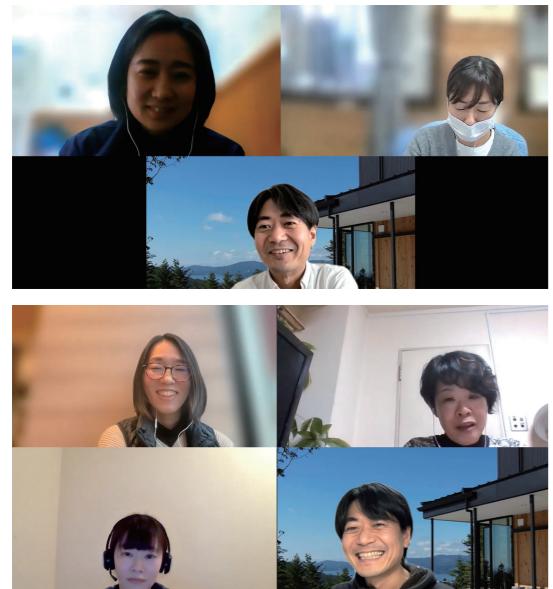
講座の前半は、多くのNPO・市民活動・サークル活動の課題・悩みである「新たな仲間の巻き込み方」について、後半は、一人ひとりの持ち味を活かして、みんなの活躍をつくるための「役割と出番のコーディネート」について学びました。

ご参加者からは、「内容は共感することばかりで、CRファクトリーと同じく“強くあたたかい組織・コミュニティ”そして“社会”を創りたくて私たちが活動しているんだと再確認できた。」という嬉しい感想もいただきました。

ピックアップ事業事例

事例
5

「コミュニティキャピタル診断」 高得点団体インタビュー



調査・研究

CRファクトリーでは、組織の状態を測定できる診断ツール「コミュニティキャピタル診断」をNPO団体中心に幅広く提供しています。2021年度の受診団体の中で、**特に得点の高かった（コミュニティの状態が良かった）3つのNPOにインタビューを行い、団体運営で心がけていることや、具体的に行っている施策などについて聞き取りました。**

「共通認識をつくることで心理的安全性を高める」などの工夫に加えて、「コロナ禍で改めて理念の言語化・テキスト化を図った」「できなくなる事業がある一方、生まれた時間を活かしオンラインでコミュニケーション量を増やした」などの取組みが聞かれました。また「診断を複数年受診することで、その変化を把握した上で施策を実施し、今回一番得点が高くなった」という団体もありました。

インタビュー結果を分析し見えてきた団体運営のノウハウや秘訣、団体の姿勢などは、2022年度にイベント開催でシェアする他、調査研究報告書にもまとめる予定です。

事例
6

調査レポート 「コロナ禍のコミュニティ・NPOの組織運営方法の変化」

コミュニティ・NPOが向き合う5つの問い合わせ	
1.	「余白・遊び」をいかにつくるか？
2.	関わり方の「温度差」をどうしていくか？
3.	コミュニティの「中心」はどこ？
4.	「新たな担い手」と出会い、迎え入れるには？
5.	私たちが「ほんとうに大切にしたいこと」は？



<https://crfactory.com/6640/>

レポート全文をお読みいただけます

調査・研究

コロナ時代をNPO・市民活動・コミュニティ活動はどのようにして乗り越えていけば良いのか。起きている困難や変化についてアンケート調査を行い、レポートにまとめました（第1回：2020年3月～4月、第2回：2020年11月～12月、第3回：2021年10月～11月）。

<第3回調査レポート内容>

●コミュニティ・NPOが向き合う5つの問い合わせ

●調査概要

●要約・データ集計・回答抜粋

・活動の量的な変化

・チーム運営やコミュニケーションにおいて新たに取り入れた手法・工夫

・コミュニケーションや関係性の質にいま起きている現象・変化

・コミュニティ・NPO組織の力がメンバーの精神面・生活面の不安を和らげている

・今後の運営方法やコミュニケーションに不安を感じていること

・今後の運営方法やコミュニケーションにおいてチャレンジしようとしていること

●調査結果をふまえたCRファクトリーからのメッセージ

事例
7

コモンズプロジェクト ～価値ある運営ノウハウをみんなの共有財（＝コモンズ）に



第1期コモンズプロジェクト
第2回ミーティング「ビジョンと年間計画の立案」
話題提供
CRファクトリー 代表理事 吳哲煥さん
(2022年3月30日開催)



“つながり”の希薄化が進む現代社会、厳しい社会情勢の中、自分で何とかする（＝自助）、行政に何とかしてもらう（＝公助）だけの構図にも限界が見えてきました。コロナ禍を経て、失われてきた“つながる力”をゆるやかに取り戻し、小単位の“みんな”で力を持ち寄り課題解決をめざす**コミュニティ（＝共助）の重要性は今後ますます高まってくる**と考えています。課題に対して「何とかしたい」と強い思いを持つも、実際は「なかなかうまくいかない」と壁にぶち当たることの多いコミュニティ運営。試行錯誤して生まれた価値ある運営ノウハウを「みんなの共有財（＝コモンズ）として」「ゆるやかにつながりながら」「みんなで合意形成して（＝コモニング）」いくことができれば…そんな**実践の場を作りたいと始動**したのがコモンズプロジェクトです。2022年1月にキックオフ、隔月でミーティングを実施し、1年後の2023年1月には成果物を発表する予定です。

事例
8

「コミュニティって水みたいなもの」 ポスター作成

啓発



コミュニティの持つ価値を新たな形で伝えていくために「コミュニティって水みたいなもの」ポスターを作成しました。**コミュニティに関わりつながりを得ることや、そのつながりの中で感じられるものは、水がなければ生きていけないよう、私たちにとって必要不可欠なもの**という想いを込めています。

ポスターの完成直後から大変ご好評をいただいている。また多くの方にコミュニティについて考えていただくきっかけをつくるために実施した特設サイトの作成や無料送付キャンペーンでも、多くの皆さまからあたたかいご感想や掲示希望をいただき、全国数十箇所に掲示いただいております。

このポスターによって、周りの方々と一緒にコミュニティについて考えたり、語り合う機会が広がっていくことを願って、今後も活用方法を企画検討して参ります。

QRコード QRコード先の特設サイトではポスターのデータ（PDF）を無料でダウンロードいただけます。ぜひご活用ください。

事業報告

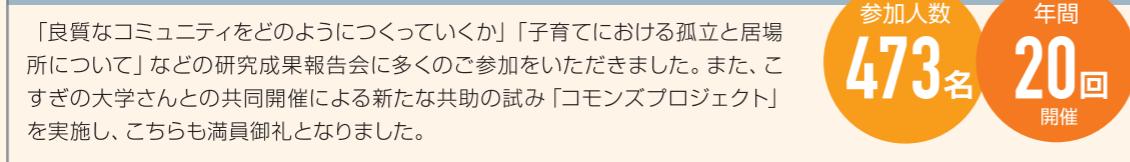
REPORT

1 人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業

NPOやコミュニティのマネジメントに関わる人を主な対象として、以下のような事業を実施しました。

PHASE1 コミュニティマネジメントとの出会い

セミナー・講座・勉強会



PHASE2 コミュニティマネジメントに変化を生み出す

コミュニティ塾	コミュニティ塾(E-learning版)	Farm	コミュニティキャピタル診断	スタッフ研修・コンサルティング
参加人数 6名 全9回	参加人数 4名 全5回	参加人数 12名 5か月間	参加団体数 59団体 1,120名	参加団体数 12団体 272名

9期目を迎え、連続講座による体系的なインプット、事前課題やプレゼンなど豊富なアウトプットと相互フィードバックを通して、コミュニティマネジメントを習得した修了生を輩出しました。

E-learningとスクーリングを組み合わせた反転学習のプログラムとして6期目を迎え、質の高いアウトプットと深い学び合いによって修了後も高め合えるネットワークが生まれました。

コミュニティマネジメントに日々奮闘するメンバーが悩みやアイデアを持ち寄り、コミュニティマネジメントを導入することができました。より多くのコミュニティに届けるため、Webシステムを開発しました。

NPOや地域コミュニティからご依頼いただき、組織基盤強化を行うため、メンバーの相互理解、ビジョン策定、事業計画策定などを支援しました。

PHASE3 強くあたたかいコミュニティづくりを志す人たちが集う

ビジョンフォーラム	コミュニティフォーラム
参加人数 72名	※2021年度の開催はありませんでした

2 全国に「強くあたたかい組織」をあふれさせるための普及育成事業

各地の中間支援組織や自治体からの依頼を受けてセミナー・講座を実施し、様々なテーマで多くの方々にコミュニティマネジメントについての普及育成を行いました。

中間支援組織・自治体

武蔵村山ボランティア・市民活動センター、横浜市緑区、つるみ区民活動センター、袖ヶ浦市、生駒市民活動推進センター、三鷹市市民協働センター、長野県佐久市、アクションポート横浜、長野県長野市、新潟NPO協会、武蔵野プレイス、かながわコミュニティカレッジ、多摩ボランティア・市民活動支援センター、多賀城市市民活動サポートセンター、大町市市民活動サポートセンター、さいたま市民活動サポートセンター、港北区区民活動支援センター、船橋市民生活部市民協働課、みやぎNPOプラザ、吹田市立市民公益活動センター、かわさき市民活動センター、富山県高齢福祉課、川口市市民生活部協働課、安曇野市市民活動サポートセンター、茅野市市民活動センター、所沢市市民活動支援センター、佐賀市市民活動プラザ、西東京市

セミナー・講座のテーマ例

コロナ時代のコミュニティマネジメント / Withコロナ時代の市民活動地域活動のあたため方 / 直接会えなくともできる楽しい活動の作り方 / ポストコロナにおける市民活動の在り方 / コロナ禍で考えたいコミュニティの価値 / 猫でもわかるチームビルディング / 新しい仲間を巻き込み組織に必要な担い手を育てる方法

参加人数 **1,678名**

年間 **71回** 開催

書籍・ツール販売によるノウハウ普及

- 書籍
194冊
コミュニティマネジメントの教科書
- 書籍
29冊
NPOの組織マネジメントノウハウ・コレクション
- 書籍
4冊
コミュニティ白書 2016

3 地域に元気な団体と個人を増やすために 自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業

地域コミュニティの担い手の育成や市民活動・コミュニティの基盤強化を目的として、連続講座を実施しました。

各自治体と良好な協働関係を築けており、いずれも継続的な取り組みになっています。

東京都中央区

地域コミュニティの担い手養成塾



町会・自治会などの地域コミュニティの新たな担い手を育成し、主体的な活動を支援しています。7年目となり、これまでの修了生は100名を超えて、定期的な同窓会も実施しています。

東京都大田区

コミュニティマネジメント塾 in 大田区



大田区との協働事業として3年目の実施です。地域の市民活動・コミュニティの基盤(活動の体幹にあたる、主体性や愛着、人と組織の関係性)を整えて、定期的な同窓会も実施しています。

千葉県鎌ヶ谷市

かまがや地域づくりコーディネーター養成講座



鎌ヶ谷市との協働事業として6年目の実施です。昨年度に続いて完全オンラインで開催しました。グループワークや放課後タイムなどの工夫を取り入れて学び合いました。

埼玉県八潮市

やしおコミュニティ未来塾



今年度からスタート。「つながりの重要性」「コミュニティ運営のノウハウ」などを学び合うことで新たな地域のつながりを生むことを目的に開催しました。

4 中間支援組織等と共に 組織基盤づくりを支援する パートナーシップ事業

各地の中間支援組織など共有ビジョンを描けるパートナーとともに、強くあたたかい組織やコミュニティを増やすための組織基盤づくりの支援を全国で行っています。地域のコミュニティの価値を高める協働事業の実施、CRファクトリーのコミュニティマネジメント支援施策の提供・導入、戦略策定の支援などを行っています。



5 「強くあたたかい組織・コミュニティ」をつくるためのノウハウ開発、 「つながりとコミュニティの重要性」についてのエビデンスづくりを行う調査・研究事業

コミュニティキャピタル研究会(上智大学との共同研究)

コミュニティキャピタル診断は、これまでの累積で実施団体数約610団体・実施対象者12,913名となりました。よりたくさんの団体に届けるためにシステム開発を行いました。2022年前期から新システムを使っての診断がスタートします。

コモンズプロジェクト

つながりが希薄化する日本社会で、互助や共助による共同性をどうつくっていくか?をテーマに、コミュニティ運営ノウハウをコモンズ(共有財)にすることで全体がハッピーになる世界を目指し、2022年1月より第1期コモンズプロジェクトが始動しています。

コミュニティマネジメントのノウハウ研究(高得点団体インタビュー)

コミュニティ運営が優れている団体にインタビュー調査を行い、その団体やリーダーの「考え方・姿勢・価値観」を聞くと共に、「具体的な工夫・施策・仕組み」について抽出分析し、他団体も活用できるよう汎用化してレポートにまとめ、共有知化します。

「コロナ禍のコミュニティ・NPOの運営方法の変化」に関する実態調査

コロナ禍においてNPO・市民活動・コミュニティの組織や運営がどのように変化したのかについての実態調査および報告会を実施しました。2020年3月-4月の第1回、2020年11月-12月の第2回に続き、感染が落ち着いていた第3回を2021年10月-11月に行いました。

参加者・パートナー・クライアントの声

地域コミュニティの活性化につながるものに

近年、コミュニティのあり方は多様化しており、SNS等の「顔の見えないつながり」が急速に発展している一方で、町会・自治会や近所づきあい等の「顔の見えるつながり」は希薄になりつつあります。今回の講座は、コミュニティづくりに興味関心のある方をはじめ、市民活動を実践している方や町会自治会の役員、コミュニティ協議会委員など様々な立場の方の参加がありました。これから活動を考えている方も、日頃の活動の中で課題を感じていた方も、グループディスカッション等のワークを通して、各々の中で漠然と抱えていた不安や悩みが明確となり、とても良い学びの場となったと感じております。本講座で得た新たな学びや気づき、本講座をきっかけに生まれた受講者間の交流は、本市の地域コミュニティの活性化につながるものと考えています。



連続講座
「やしおコミュニティ未来塾」ご担当

八潮市 市民活力推進部
市民協働推進課 主事

里 佳寿子さん

とても刺激的なものばかりでした

「音楽コミュニティを運営する人や組織の繋がりをつくりたい」と思い相談した方から、「コミュニティマネジメント」を勉強する事を勧められ、体系的に学ぶことができる「コミュニティ塾」の存在を教えて頂きました。そして昨年夏の約3か月間、オンラインで学ぶ事となりました。初めて学ぶコミュニティマネジメントはとても刺激的なものばかりでした。特に印象に残っているのは「理念発表」です。私は「これから創ろうとする音楽コミュニティ」の理念と浸透方法をゼロから創りだしました。これは大きな壁であり、自身の事を改めて考え直す機会となりました。これまでの経験を振り返り、自分の心に何度も問いただし、やっと理念を生み出しました。初めてのプレゼンはとても緊張しましたが、今となっては良い思い出です。ここから生まれた理念をこれからも大切にしていけたらと思います。」



「コミュニティ塾」9期生

或る音楽会プロジェクト
主宰

松本 佑紀さん

コミュニティ全体の価値向上に挑戦中

コロナ禍で浮き彫りになった社会（公助）と個人（自助）の分断を埋めるコミュニティ（共助）。ボランティアベース故にWill・Can・Mustが合致せず、WillにCanが届かない場合もあります。現在、コモンズプロジェクトを立ち上げ、各コミュニティが育んできた運営ノウハウの言語化・共有化を通じてコミュニティ全体の価値向上に挑戦中です。独自のノウハウをコモンズ（共有財）にする寛容さもCRファクトリー・ファミリーの宝ですね。



コモンズプロジェクトメンバー

こすぎの大学
岡本 克彦さん

一人ひとりの気持ちや考えをしっかり聴いて、新制度をスタートできました

団体の活動をもっと前に進めたい一方で、運営スタッフはそれぞれ本業を持っているため、活動できる時間には限りがあり、団体の推進とスタッフの幸せをどう両立できるかが悩みでした。

「みんなの力は借りたいけれど、自己犠牲の上に成り立つ組織にはしたくない。」「やらされ感ではなく自分の「やりたい」が発揮できる組織にしたい。」「みんながスタッフとして活動し続けたいと思える「報酬制度」を作りたい。」

この3つの願いをもとに、スタッフのみんなと一緒に制度をつくっていくために、CRファクトリーさんに伴走いただきました。3回のワークショップを各回の反応を踏まえて丁寧に設計いただいたことで、一人ひとりの気持ちや考えをしっかりと聴くことができました。

このワークショップを経て、最終的にそれぞれが関わり方と報酬を選択する新制度をスタートすることができました。みんなの声を踏まえた制度設計ができることで、新しい活動に向かう推進力が生まれたと思います。



組織内ワークショップの
設計・実施をご依頼

特定非営利活動法人
HUG for ALL
代表理事
村上 綾野さん

数値化されることで議論が進みました

2019年の組織の雰囲気は最悪。理事も事務局員も、良い活動に対する熱い想いはあれど、空回りしていました。2020年から組織改善に取り組み始め、コミュニティキャピタル診断を利用しています。診断結果はだいたい予想通りでしたが、数値化されることで議論が進みました。読み解き会があるので、受けっぱなしにならないところが良いです。組織改善の成果を確認するために、今後も診断を継続していきたいです。



「コミュニティキャピタル診断」をご利用

認定NPO法人
地球市民の会
ミャンマー駐在員
鈴木 亜香里さん

代表メッセージ

「コミュニティ」と「つながり」の重要性が増す未来の社会

代表理事 呉 哲煥

経済成長によって人も社会も豊かで幸せになるという価値観の崩落

社会が少しずつ大きく変わろうとしていることを感じています。右肩上がりの経済成長によって、人も社会も豊かに幸せになっていくというモデルは、段々と時代に合わなくなっていました。経済成長の副作用としての「環境問題」が顕在化し、「格差」の問題やそれと関連する「孤独・孤立」の問題もより現代的な課題として顕在化しつつあります。

高度経済成長期は、たくさん勉強して、いい学校に入って、いい会社に入れば、収入と安定(福利厚生・終身雇用)が約束されて、それが幸せの一本道であるかのような価値観が社会全体に共有されていました。それが完全に崩れたわけではないですが、価値観が多様化し、幸せに向けた(みんなが歩く)太い一本道が、複数の道に分かれているのを感じます。

それは日本が「成長社会」から「成熟社会」へと進んだことによつて、「これ以上、経済や収入を上げていくだけでは、人や社会が幸せにならなそうだ」ということに社会全体で気づき始めてきたからだと思います。学力偏差値といった画一的な価値基準や、「就職人気企業ランキング」といった価値基準は少しずつ存在感を弱めています。

人口減少や少子高齢化も影響しているように思います。少子化・人口減少によって少しずつ受験や就職の競争は弱まってきていて、高齢化によって社会のモードは成熟・定常の方向に進みつつあります。社会全体が少しずつギアを切り替えて、次の価値観やモードが何なのかを探し始めているように思います。

次の時代の豊かさの鍵は「コミュニティ」と「つながり」

では成熟社会や定常社会における豊かさの鍵は何になってくるのでしょうか。それはやはり「コミュニティ」と「つながり」になっているのだと思います。

自分が自分らしく居られる居場所があること。楽しくて、ほっときて、心が元気になる居場所があること。一緒に人生を楽しんでいける仲間・つながりがあること。何かあったときに、頼れたり、助けを求められる仲間・つながりがあること。

そんな居場所や仲間やつながりがあるから、人生が充実して、生きることへの前向きな気持ちが湧いてきて、明日が楽しみになる。そのとき、「孤立」や「息苦しさ」や「生きづらさ」は減るような気がします。そして、人生における「ウェルビーイング(幸福・健康)」は高まっていくと思います。そんな「コミュニティ」と「つながり」を各個人がどのように持つことができるか。さらには、そういう状態が実現しやすい環境を社会がどのように用意していくことができるか。それが次の時代の豊かさの鍵になるように思います。

コミュニティのかたちが変わってきている

今までのコミュニティと言えば、大家族や親戚などの血縁関係、会社や職場などの社縁関係、地域や隣近所などの地縁関係が主なものでした。しかし、個人差や地域差はあるけど、これらの既存のコミュニティは時間をかけて大きく構造変化し、今までのようないくつかの基盤・よりどころとしてはその存在感や効力は弱ってきてています。これらの既存のコミュニティの弱体化やそれによるつながりの希薄化は、現代の孤独・孤立の構造的な要因になっていると考えられます。

一方で、現在や未来に目を向けると、これを補ったり代替するような新たな動きも少しずつ出てきています。1995年の阪神淡路大震災を契機に、1998年にNPO法が出来て、NPO法人というものが誕生しました。今では「NPO」という言葉は当たり前に使われるようになってきています。それ以外にも、市民活動、サークル活動、勉強会、読書会、朝活、コミュニティカフェ、こども食堂、居場所・サロン、コワーキングスペース、オンラインサロンなど、様々な活動やプロジェクトがいろいろなところで立ち上がって動いています。

私は今は「コミュニティ再編」の時期だと捉えています。コミュニティにとっては「谷間」であり、これから山登りがはじまると思っています。「谷間」に向かってくださったこの数十年間で、血縁・地縁・社縁といったこれまで日本社会を支えてきたコミュニティは弱体化して地盤沈下しました。それによって孤独・孤立という構造になりました。現代は孤独・孤立に起因すると思われる社会課題も大きく顕在化しています(自殺・うつ・児童虐待・ひきこもり・孤独死など)。そして、ここからは山登りが始まり、10年~20年かけてコミュニティを再編していくフェーズだと思います。いま新たに人々をつなぎ直す「コミュニティのかたち」が求められています。

コミュニティの運営がうまくなる

そんなふうにこれからはコミュニティがより必要な時代になっていくのですが、「コミュニティ」の難しいところは、商品やサービスのように与えられるものではなくて、自らつくり出す必要があるところです。企業が商品開発して売るようなものではないですし、自治体が行政サービスとして提供するようなものでもありません。個人・住民・市民が自らつくり出したり運営することが必要になります。

しかし、残念ながら、現代社会においては、コミュニティをつくったり運営したりする経験は必ずしも多くはなく、それほど求められもしないですし、スキルトレーニングもほとんどありません。コミュニティやつながりの必要性が高まっているのにも関わらず、それをつくったり運営したりする経験や能力を多くの人が持っていないという状況にあります。ここには大きなギャップと課題があり、この状況を大きく変えていく必要があると考えています。

多くの人が子どものときから、そして大人になっても、コミュニティを運営できる経験とスキルを積んでいけると良いと思います。具体的にはミーティングをやる力や、イベントを企画・運営する力、まわりの人たちを巻き込んでチームビルディングしながら活動を進める力、みんなとわいわい楽しく活動する力、など。こういう経験とスキルを身に着けて、地域のイベント・お祭などの運営を担ったり、趣味のサークルや楽しいプロジェクトを自分たちで運営したり、自分たちが必要としている活動の運営スタッフをしたり。

良いコミュニティとつながりに恵まれることが人生のウェルビーイング(幸福・健康)につながるのだとしたら、それを自らつくり、つくろうとしている動きに加わって一緒に運営したり、そうやって“自分たちで良いコミュニティをつくり運営する力”を育むことがこれから社会にはより必要になってくるように思います。NPO・市民活動・地域活動のような団体運営から、少し大きめのイベント・プロジェクトの実行委員会、さらにはちょっとした勉強会やホームパーティーまで、“コミュニティ運営がうまい人”が増えていることが、社会のコミュニティやつながりの充実につながっていくと思います。

コミュニティに参加する力

もう一つ育むべき大切な力は“コミュニティに参加する力”です。孤独・孤立の現場に触れていると、コミュニティとつながりからの断絶を感じます。これはごく一部の人たちの話ではなく、社

会構造の変化によって影響を受けた現代社会全体の問題であり、みんなの話です。

今まで比較的「与えられるコミュニティとつながり」が多い構造でした。大家族というコミュニティとつながりが与えられ、親戚関係が与えられ、学校のクラスというコミュニティが与えられ、終身雇用の会社コミュニティが与えられ、地域コミュニティとご近所づきあいが与えられる、というようなものです。しかし、この数十年でこれらの圧力は和らぎ、人々はこれらのわざわしさから離れられるようになり、自由度を高めてきました。

これは良い面が多分にあると考えられます。コミュニティとつながりを選択する自由度が高まるということは、それだけそれを自ら獲得する能力と責任も同時に伴うことになります。これは早稲田大学石田光規先生が指摘するように「選択的関係の主流化」であり、これから社会は自らのコミュニティとつながりを自らの手で選択して編集する(編む)力がより求められる社会構造になっていきます。

このとき社会で用意する必要があるのが、“コミュニティに参加する力”的教育です。自分に合ったコミュニティを探し、見つけ、参加する力。そこでメンバーとして、ときにスタッフとしてうまくやっていく力。うまくいかない人間関係があったときに、関係性を良くするために働きかけたり、うまく中和したり、距離を取ったりして、上手に人間関係を調整する力。そうやって、自分にとって最適なコミュニティとつながりを自分のまわりに設置・編集する力がこれからはより必要になってくると思います。

これらの教育は学校教育や社会教育、そして生涯学習の文脈の中で行われてきていますが、まだ十分とは言えないように思います。成熟社会・定常社会となり、ウェルビーイング(幸福・健康)やヒューマニティ(人間性)を中心に考える価値観が重要視される時代への大きな転換点において、“自分を健康で幸せにするコミュニティとつながりを自分のまわりに設置・編集していく力”はより大きな時代的テーマになっていくと考えています。

次の10年~20年という長期的なスパンでのごとを眺めたとき、「コミュニティ」と「つながり」の重要性はますます高まっていくように思います。その大きな潮流の中で、私たちはさらなる仕掛けや挑戦に取り組んでいきます。そして、それは私たちらしく楽しく快活なものでありたいし、人を大切にしながらやっていきたいと考えています。この旅はまだまだ長うなので、私たちの幸運や健康も大切にしながら、じっくりとビジョンを見つめて歩んでいきたいと思います。そして何よりこのビジョン・世界観と共に感してくださる皆さんに参加してほしい・連携してほしいと思っていました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ビジョン・ミッション

現代日本社会には、自殺者約2万人、うつ約120万人、児童虐待相談件数約19万件、孤独死約3万人、などの切実な社会問題があります。なぜこのような社会問題がなくならずに、生み出され続けているのか？それは、これらの社会問題を生み出し続ける基本構造として、「つながりの希薄化」「コミュニティの弱体化」があり、それによる孤立・孤独・分断が根本要因になっているためと考えています。この基本構造・根本要因を転換し、「つながり」と「コミュニティ」が豊かな社会にしていくことが私たちの役割です。

ビジョン（私たちの目指すもの）

すべての人が居場所と仲間を持って心豊かに生きる社会の実現

ミッション（果たすべき使命）

居場所と仲間を感じるあたたかいコミュニティを世の中にあふれさせること

SERVICE

サービス一覧

セミナー・研修・コンサルティング



強くあたたかい組織・コミュニティのつくり方
NPO・市民活動・地域活動などの運営者・担い手向けに「新しい仲間を巻き込み組織の担い手を育てる方法」など、マネジメント力向上や組織基盤強化を目的とした様々なセミナー・講座等を提供しています。

導入ツール

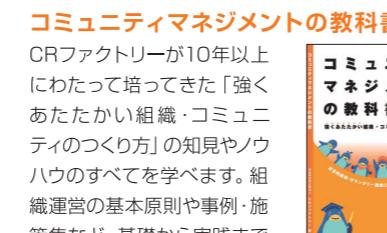


コミュニティキャピタル診断
NPO・市民活動・地域活動などの運営者・担い手向けに「新しい仲間を巻き込み組織の担い手を育てる方法」など、マネジメント力向上や組織基盤強化を目的とした様々なセミナー・講座等を提供しています。



コミュニティ運営支援ツール「コミュ助」
コミュニティ運営における「ミーティング」「イベント集客」「年間計画」の課題を解決する運営支援ツールです。運営に変化を起こす具体的な方法・進め方がわかり、すぐに導入できるテンプレートもご提供します。

書籍



コミュニティマネジメントの教科書

CRファクトリーが10年以上にわたって培ってきた「強くあたたかい組織・コミュニティのつくり方」の知見やノウハウのすべてを学べます。組織運営の基本原則や事例・施策集など、基礎から実践まで活用できる書籍です。



NPOの組織マネジメントノウハウ・コレクション

NPO・非営利組織22団体に調査を行い、現場で実際に行われている組織マネジメントの145の施策・ノウハウを分析！重要な「3つの観点」に集約し、その具体的な事例を豊富に掲載しています。

コミュニティ白書

現代日本において多くの社会問題が発生している構造要因を紐解いていくとともに、統計データなどのエビデンスをもって「つながり」と「コミュニティ」が健康・幸福・教育に効果があることをご紹介しています。

参加型プログラム



コミュニティ塾

NPO・市民活動・サークルなどの「組織運営」に必要なマネジメント項目のすべてを体系的に学ぶ全8回の連続講座です。基礎知識から実践的なノウハウまで学んで、組織に大きな変化を起こしていきます。



コミュニティ塾 (E-learning版)

「コミュニティ塾」の内容を自宅で動画学習し、スクーリング（集合授業）で実践に向けたアクションを対話を通じて深めていく「反転授業」で、コミュニティマネジメントの体系を学びます。



Farm

コミュニティマネジメントに日々奮闘するメンバーが、互いに悩みやアイディアを持ち寄る有料のオンラインコミュニティ。対話を通じてコミュニティマネジメントを耕し、育て、実践し、進化を目指しています。

会計報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日 (単位:円)

活動計算書

科目	金額 [税込]
受取会費	270,000
受取助成金	2,717,500
受取寄附金	139,076
事業収益	14,335,657
受取利息	72
経常収益 計	17,462,305

【経常費用】	給料手当	2,280,000	管理費	役員報酬	600,000
	業務委託費	8,950,112		給料手当	2,280,000
	謝金	40,000		法定福利費	926,114
	印刷費	407,106		福利厚生費	25,869
	旅費交通費	170,579		業務委託費	1,685,350
	通信費	25,700		印刷費	66,771
	消耗品費	25,568		会議費	19,800
	賃借料	2,640		旅費交通費	7,974
	支払手数料	68,998		通信費	200,573
	広告宣伝費	6,000		消耗品費	23,814
	雜費	78,293		地代家賃	844,800
	荷造運賃	102,397		借借料	30,140
	外注費	812,786		租税公課	167,450
	期首商品棚卸高	343,868		支払手数料	115,415
	期末商品棚卸高	-357,825		支払利息	27,983
				雜費	207,480
				荷造運賃	29,524
				施設使用料	28,600
				外注費	341,000
				支払報酬	240,321
				管理費 計	7,868,978
	事業費 計	12,956,221			
	経常費用 計	20,825,199			
	当期経常増減額	-3,362,894			

税引前当期正味財産増減額	-3,362,894
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期正味財産増減額	-3,432,894
前期繰越正味財産額	4,688,885
次期繰越正味財産額	1,255,991

団体概要

団体名

特定非営利活動法人CRファクトリー



所在地

〒108-0014 東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階

メールアドレス

info@crfactory.com

設立

2005年9月26日 17期目

目的

この法人は、広く一般市民に対して、コミュニティ支援に関する事業を行い、人々が愛着を持つれるコミュニティがあふれる世の中を実現し、すべての人が絆・居場所・存在意義を感じながら、生き生きと充実した人生を送ることのできる世の中づくりに貢献することを目的とする。(定款第3条より)

事業内容

- (1)人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業
- (2)中間支援組織と共に組織基盤づくりを支援するパートナーシップ事業
- (3)全国に「強くあたたかい組織」を溢せるための普及育成事業
- (4)地域に元気な団体と個人を増やすために自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業
- (5)「強くあたたかい組織」をつくるためのノウハウ研究・開発、「つながりとコミュニティの重要性」についての研究・エビデンスづくりを行う調査・研究事業
- (6)その他、目的を達成するために必要な事業

役員

代表理事 吴 哲煥

理 事 五井渕 利明

理 事 森 祐美子
(NPO法人こまちぱらす 代表理事)

理 事 杉山 純子
(一般社団法人CAN net 代表理事)

理 事 阿部 剛
(NPO法人まつどNPO協議会 理事)

監 事 石橋 正行

事務局

事務局長 高橋 智子

会員数

個人正会員 20名/個人賛助会員 10名
団体賛助会員 1名(2022/3/31時点)